

EUSI メールマガジン Vol. 065
「日本・EU 議員会議」(倉田保雄)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)
http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/

【EUSI Commentary Vol. 047】

「日本・EU 議員会議」

倉田保雄 (参議院国際部国際会議課長)

日本とEUとの間のハイ・レベルの対話の枠組みというと、多くの人が1991年に開始された「日EU定期首脳会議」を思い浮かべるかもしれない。しかし、このシステムの構築に先んじて1978年にスタートした「日本・EU議員会議(1993年開催の第14回会議までは「日本・EC議員会議」。)については必ずしも一般に知られているとは言い難い。本稿は日本・EU議員会議について簡単な紹介を行うものである。

我が国とEUは基本的な価値を共有するグローバル・パートナーとして現在は極めて良好な関係であるが、1960年代から両者の間では貿易(通商)問題が大きな懸案となっていた。

1970年1月1日にEC加盟各国が有していた対外通商権限がECに移行し、これに対応するような形で、その直後の2月2日、欧州議会は「ECと日本との貿易問題の進展を注意深く見守り、かつ、必要に応じ、欧州議会と日本国会との接触の可能性を検討することを所管委員会に命じる」ことを決議した。

この決議が欧州議会でどのようにフォローされたかは確認できないが、1976年に我が国の対EC貿易黒字が過去最高を記録したこともあり、翌年3月10日に欧州議会は「EC・日本間経済・貿易に関する決議」を行い、「日本・EC間の議会レベルでの協議の継続の重要性を強調し、したがって欧州議会及び日本国会議員団間の定期的接触の開始を提案する」ことを求めた。

具体的に議会間の「定期的接触」について言及するこの提案は、公賓として日本を訪問したロイ・ジェンキンスEC委員会委員長によって同年10月12日に保利茂衆議院議長に伝達された。

これを受けて、日本国会と欧州議会の間でその進め方について協議が行われ、1978年7月に倉成正衆議院議員を団長とする衆参10名の議員団が訪欧し、同年10月には欧州議会から10名の議員が訪日して「日本・EC議員会議」が開催された。また、1978年7月には衆参両院議長の招請により欧州議会議長が訪日し、翌年7月には、直接選挙後初となる欧州議会の開会式に衆参両院議長が招待された(実際の出席は衆議院議長のみ)。

...

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol47.pdf>

【EUSI イベントご案内】

1. EU Economics Seminar (3回開催: 3/10・12・13)

第1回「Talking with Dr. Darvas on the EU and Middle-Eastern European Economy Today」

日時: 2015年3月10日(火) 18:30-20:30
場所: 学士会館 3F 308号室 (東京都千代田区神田錦町3-28)
言語: 英語 参加: 自由・無料 (事前予約不要)

講演: Zsolt Darvas (Bruegel シニア・フェロー)

第2回「Talking with Professor Tsakoglou on the Greek Economy Today」

日時: 2015年3月12日(木) 15:00-17:00
場所: 津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス 津田ホール 1F 会議室 T101/102
言語: 英語 参加: 自由・無料 (事前予約不要)

講演: Panos Tsakoglou (アテネ経済大学教授)
討論: 鈴木均 (新潟県立大学国際地域学部講師)

第3回「Talking with Professor Buhner on the German Economy Today」

日時: 2015年3月13日(金) 18:30-20:30
場所: 津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス 津田ホール 1F 会議室 T101/102
言語: 英語 参加: 自由・無料 (事前予約不要)

講演: Werner Buhner (ミュンヘン工科大学教授)
討論: 鈴木均 (新潟県立大学国際地域学部講師)
<http://eusi.jp/outreach/seminar-workshop/20150310-13-economics/>
<http://eusi.jp/en/outreach/seminar-workshop/10march/>

2. EUSI 国際シンポジウム「日本における死刑廃止の課題と見通し」

日時: 2015年3月16日(月) 13:00-18:15
場所: 一橋大学一橋講堂 (千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター内)
言語: 日英同時通訳

事前登録が必要です。

1. 名前、2. 所属、を記入し、3月11日(水) までに、eメールで EUSI 事務局 (info@eusi.jp) にお申し込み下さい。

総司会: 川崎恭治 (一橋大学国際・公共政策大学院院長、EUSI 執行委員)
挨拶 青木人志 (一橋大学大学院法学研究科長)
挨拶 ジョナサン・ハットウェル (駐日 EU 公使)
基調講演 キャロライン・ホイル (オックスフォード大学刑事法教授)

第1部: 欧州ではなぜ死刑が廃止できたのか?

クリストフ・シュトレッサー (ドイツ連邦政府人権政策・人道支援担当委員)
討論・質疑応答 (司会: 葛野尋之 (一橋大学大学院法学研究科刑事法教授))
青木人志 (一橋大学大学院法学研究科長)

青木孝之 (一橋大学大学院法学研究科刑事法教授)
 キャロライン・ホイール (オックスフォード大学教授)

第2部: 日本ではなぜ廃止できないのか?(どうすれば廃止できるのか?)

本庄武 (一橋大学大学院法学研究科刑事法教授)

佐藤舞 (オックスフォード大学リサーチオフィサー)

田鎖麻衣子 (弁護士・日弁連死刑廃止検討委員会委員)

討論・質疑応答 (司会: 橋本正博 (一橋大学大学院法学研究科刑事法教授))

シュテファン・ヘルツベルク (駐日ドイツ公使・政務部長)

キャロライン・ホイール (オックスフォード大学教授)

王雲海 (一橋大学大学院法学研究科刑事法教授)

<http://eusi.jp/outreach/conference-symposium/2015-3-16/>

【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】

網谷龍介 (津田塾大学学芸学部教授、EUSI 執行委員)

「日本における EU・ヨーロッパ研究の可能性」

『上智ヨーロッパ研究』第7号(2015年3月) 107-123 頁

【EU に関するニュース】

- 2015年2月15日 EU 海軍部隊ハグレン司令官、海自の第2護衛隊柏原司令とアデン湾海賊対策協力確認
- 2015年2月16日 ユーロ圏財務相会合(ユーログループ)、ギリシャ支援協議で再び合意に至らず物別れ
- 2015年2月16日 EU、対ロ制裁にバヒン露第一国防次官やアントノフ露国防次官など19名・9団体追加
- 2015年2月16日 モグリーニ上級代表、ダーイシュによるエジプト人キリスト教徒21人斬首へ非難声明
- 2015年2月16日 Eurostat、12月貿易収支はユーロ圏18国で243億、EU28カ国で124億ユーロで共に黒字
- 2015年2月16日 英 Channel 4「UKIP の最初の100日」、UKIP 英政権下で EU 離脱した場合の英社会を放映
- 2015年2月17日 欧州自動車工業会(ACEA)、1月新車販売数は EU27カ国(マルタ除く)で前年同月比+6.7%
- 2015年2月18日 ECB 政策理事会、683億ユーロのギリシャ銀向け緊急流動性支援(ELA)承認、33億分増額
- 2015年2月18日 欧州委員会、資本市場同盟に向けて行程表提出。投資障壁除去や中小企業資本調達等
- 2015年2月18日 モグリーニ上級代表、親ロ派のデバリツェボでの停戦違反を非難、OSCE 監視受入要求
- 2015年2月19日 仏独露ウクライナ4カ国首脳電話協議。停戦合意違反や平和維持部隊派遣めぐり応酬
- 2015年2月19日 ギリシャ政府、6カ月金融支援延長求める申請書提出。現行支援計画反対より態度転換
- 2015年2月19日 ECB、初の理事会議事要旨公開。今公開は1月理事会分。議事録全文は30年間非公開
- 2015年2月19日 財務省、1月貿易統計(速報値)。対 EU 輸出6563億円・輸入6785億円と2カ月ぶりに赤字
- 2015年2月20日 ユーロ圏財務相会合(ユーログループ)、ギリシャ支援4カ月延長で合意、緊縮路線継続
- 2015年2月20日 トゥスク常任議長、ウクライナ停戦合意違反300件以上発生、次の行動示唆する声明
- 2015年2月20日 英 Markit Economics 社、2月総合購買担当者指数(PMI)速報値はユーロ圏で53.5と改善
- 2015年2月20日 中国駐 EU 代表部、公式 Facebook・Youtube・Flickr など SNS 開設、情報発信強化へ
- 2015年2月20日 世界鉄鋼協会、1月鉄鋼生産統計発表。EU28カ国は前月比+15.4%と3カ月ぶり増
- 2015年2月20日 仏映画「ティンブクトゥ」(EU 映画産業助成作品)、セザール賞で7部門最優秀賞受賞
- 2015年2月22日 ポーランド映画「イーダ」(EU 映画産業助成作品)、アカデミー賞最優秀外国語映画賞
- 2015年2月23日 ギリシャ、EU 金融支援延長に向け第1次改革案提出。民営化凍結など撤回、緊縮継続へ
- 2015年2月23-27日 日・EU EPA 交渉第9回会合、ブリュッセルで開催。条約文案や非関税障壁など議論
- 2015年2月24日 ユーロ圏財務相会合(ユーログループ)電話協議、ギリシャ第1次改革案を基本承認
- 2015年2月25日 欧州委員会、エネルギー同盟構築に向けた包括的戦略発表。気候変動やエネ市場統合等
- 2015年2月25日 欧州委員会、仏財政規律達成期限を2015年から2017年まで延長で合意
- 2015年2月25日 日・EU 軍縮・核不拡散対話。ピリツァ担当特使、宇宙開発国際シンポジウムで講演
- 2015年2月25日 露大統領、キプロスと対テロ作戦時のロシア軍艦の同国港湾寄港の軍事協定締結を発表
- 2015年2月25日 イスティチョアアイア＝ブドゥラ駐日 EU 大使、日・EU EPA 交渉は待ったなしと講演で言及
- 2015年2月26日 モグリーニ上級代表、ラブロフ露外相とミンスク合意履行や OSCE 監視団受入等電話会談

2015年2月26日 欧州委員会、2月景況感指数はユーロ圏19カ国で102.1と昨年7月以来の高水準
 2015年2月27日 欧州金融安定化基金(EFSF)、ギリシャ支援を4カ月間の延長を決定。6月末まで支援継続
 2015年2月27-28日 英独立党(UKIP)春季党大会、EU離脱・移民制限や社会保障・選挙戦略等幅広く議論
 2015年2月28日 モゲリーニ上級代表、ネムツォフ元露第一副首相暗殺に対し哀悼と迅速な捜査求む声明

【編集後記】

今回の巻頭エッセイは、参議院事務局の倉田保雄国際会議課長に執筆していただきました。

欧州議会と日本の国会とは長年にわたって交流を続けてきています。以前は両者の立法機関としての権限に大きな差がありましたが、欧州議会が立法権限を拡大し、またEU法が欧州市民に与える影響が大きくなる中で、対等な立法機関として日・EU関係を強化する上での重要なチャンネルとなっています。

日・EU(EC)間の貿易不均衡を背景に欧州議会が日本の通商・貿易スタンスを批判するという一方的な構図から、政治、外交、経済、環境、文化等の広い領域の中で、お互いの協力関係を冷静に議論するという方向に向かっているように思われます。

今後は、議員会議での議論をそれぞれに国・地域に持ち帰ってから、どのように政策化、そして立法化するのかということが問われることになると思われ

ます。
 EUSIでは、3月の8日及び9日に津田ホールで「ユーロの試練に抗して—欧州の治癒力と新たなEU学の展望—」と題するシンポジウムを開催しました。

手前みそですが、経済、歴史及び政治的な視点からユーロ問題を捉えた有意義な会議となりました。来月の巻頭エッセイには、これを踏まえた論稿を掲載する予定です。

来週の16日には、竹橋の一橋講堂において、死刑廃止問題についてのEUと日本のスタンスを比較して議論するシンポジウムを開催します。内外の学者・専門家による問題意識に溢れた活発な議論が期待されます。

こちらにも奮ってご参加ください。

(藤川哲史・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン編集担当)

昨日来日したメルケル独首相は一般向けの講演会の冒頭、こんなエピソードから日独関係の始まりを語りました。「ちょうど142年前のこの日にあたる1873年3月9日は、岩倉使節団がベルリンに到着した日に当たります。この岩倉使節団は、日本の世界に向けて開かれた姿勢、そして日本の知識欲を代表するものだと思います。そして日本人とドイツ人の間には、この間に多様な繋がりが生まれています——」

当時の記録にあたる『米欧回覧実記』(現在では岩波文庫より復刊)を紐解くと、岩倉使節団がドイツから受けた印象が実に詳細に描かれています。ハイライトとなるのは3月15日に宰相ビスマルクに招かれた晩餐会でした。当時ドイツは1871年(岩倉使節団到着の2年前)にドイツ帝国として統一されたばかりで、それまでは30余の中小国からなる連邦国家に過ぎませんでした。このようなヨーロッパ内の後発国でありながら、急速に近代化を成し遂げた様子に感銘を受けた使節団は、自らの国のモデルとすべきは、すでに高度に近代化を遂げた英米仏のような国家だけではなく、むしろドイツのような国ではないかと、相対的に強い印象を抱くようになったと言われています。

この日ビスマルクが一行に語ったドイツの国際政治観は、当時の力の均衡に基づく現実主義的なヨーロッパ国際関係を反映したものでしたが、現在の国際関係はより成熟し、むしろ法の支配の遵守や力による変更に対する平和的解決

などが重要とされるようになりました。昨日のメルケル独首相の講演も、これらの点について非常に強いメッセージを発しており、我々としてもこれらを受け止める必要があるように思われます。他方で、日独間で異なるアプローチを取ってきたものに対しても、日本人としては謙虚にそして真剣に受け止める必要があるでしょう。

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン編集担当)

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局

TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての
問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: info@eusi.jp
